

住宅のプランを考えるにあたって、出来れば欲しいモノ、余裕。間取りで言うと、それは大空間だったり、プラス1室だったり、又は特に使いみちの決まっていなスペースだったりします。あっても無くても生活には支障はない、だけど有る事によって、そこに住む人の暮らし方に余裕を生む事が出来る。余裕が有ると無いのでは大きく違うのです。

ですが、敷地の面積や、予算の関係等により、その余裕をプランで実現する事は結構難しかったりします。そして、その余裕に対する考え方も住まい手によって様々であり、設計側との理想の共有が重要になってくるのではないのでしょうか。

余裕というのは何も空間的な広さだけでは無く、デザイン性によって生み出す事も出来ます。例えば普通に造ってしまえば、ただの動線だったり廊下だったり、照明の工夫や仕上げの材料、によって雰囲気が出ますし、突き当たりの壁にポイントでタイルや左官を使ったり、飾り棚を設けて視線を集中させ、他の隠したい部分を目立たなくする事も出来ます。その家、その家族に合った間取りがあるように、それぞれの余裕の出し方も異なりますね。個人的には、この余裕を、要望、条件、コストを満たしながらどうやって持たせるか、無い脳ミソをフル回転して導き出すのが大好きだったりします。

今回のお家ではその余裕を路地という形で取り、内と外を曖昧にすることで、ロケーションを活かし、日々の生活にゆとりを感じられる造りにしています。

裏庭へと繋がる路地は、壁を左官、床をタイルで仕上げ、外部のテラスと同材仕上げにする事により、わざと中と外の境界を無くしています。

暗めのトーンにする事によって、この先に何が有るんだろうという期待を持たせ、次に来る明るい空間をより開放的に感じる事が出来るでしょう。

## 余裕。

路地はお家の全てと繋がっていて、単なる動線ではなく、お家の顔として存在しています。

お客様は路地を通してテラス越しに見える、裏庭のジューンペリの樹を眺めながらリビングへ。

買い物をして帰って来た奥様は、玄関に入っすぐ横のパントリーを通りキッチンへ。

テラスは軒が深くかかっているので、普段はゆったり涼む場所に。それから急な雨でも心配せず洗濯物を干せますね。

リビングにある3畳の小上がりは、お子様のお昼寝や、遊びスペース、寝っ転がってテレビを見ながら寛ぐ等、用途は様々。

ロールスクリーンで緩く仕切る事が出来るので、大人1人の布団を敷く事も出来ます。

床と同材で特別に造ったソファーとも繋がっていて、リビング全体がまとまりのある空間になり、とても落ち着きます。

リビングの横にある階段にはリビング側に窓を設け、明かり取りの役目を果たしつつ、人の出入りがわかるようにしました。

2階へ上がると、やはり山手なので窓からの眺めは圧巻です。やっぱりこの景色のなか生活するのは憧れますね。そもそも、この土地を選ばれたお施主様に、心の余裕を感じます。きっとこの景色を見ていたら、日々の細かいことなど忘れられそうな気がします。

家造りをお手伝いさせて頂いて、日々感じる事があります。

それは、住まい手、土地、担当設計者、この三者はご縁なのだ、と。この三者がピッタリとしくりと来た時、最適のプランが出来るし、最適の住まい方が出来るんじゃないかなと思うのです。

今回のK様邸はまさにそうでありたいと思うし、そうであったと思うのです。この土地で無ければ、そして、K様でなければこのプランは生まれて来ないのです。

K様との出会いに感謝。そしてお引き渡しは・・・

正直、寂しいです！（笑）